

# 社は「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」

## —私益と公益の矛盾なき一致—



### 小松電機産業

#### 小松 昭夫社長に聞く

小松電機産業は神さまの国、出雲で生まれたベンチャー企業。率いる小松昭夫社長もまた、世間一般の起業家という枠にはまらない。企業経営者というより、哲学者・思想家といった方が適切かも知れない。その強烈な個性から生まれる語録は難解だが、どこか新鮮。「競争と共生の両立」「企業から事業へ」「長期の多面的・根源的」「中庸の生き方」「酸化から還元として寛容・蘇生循環へ」など。次々と飛び出す。それでも発するメッセージは不変。常に視点はアルキメデスの多面体に挑戦するように無限の球に近い。一方で社長は「今年創業30年だが、この間一度も赤字をだしたことはない。無借金経営、金もついてもつまらぬ」と笑い飛ばす。これからは環境・健康平和「災い転じて福となす」をキーワードに、中海・宍道湖圏が北東アジアで大きな役割を担う時代が来た、と説く小松社長を訪ねた。

(聞き手 正伝盛豪・広島総局長)

### 高速開閉シートシャッター

#### 防塵・防虫性で新市場創出

小松経営の本質は市場創出によって本業である。結果として、偏狭の時代にあつて、これからの社会へ変革を促すべく、島根県八束郡雲村、必要とされる役割を担うシートシャッターのための、頭脳と立場を創出は中小企業研究センター「門番」の誕生と発展の過程であったと認識している。

小松 人間・自然・科学の三方から場を整える21世紀の帝王学(木鶏学)、本来あるべき姿に誘導する宰相学(リーダー学)を矛盾と思われ(この両立)の気運を高め、時流、地の利を高く、順序を踏んでタイムを計る中から天の時を会得、和の生まれる瞬間をつくる。これから「どうなるか」ではなく「何のために何を目標とするか」という現実がある。いつ何をどうするか?が命。この「する

### 上下水道制御・管理システム ネット活用で全国展開へ

#### 「やぐも水神」を投下された島に中国通信システムの大革命

「もう一つの主力商品である『やぐも水神』を投下された島に中国通信システムの大革命を受け、現在ではNTTドコモと提携、信頼性を飛躍的に高め、Dopa網・インターネット技術を生かして全国展開の管理システムへと進化している。劇的な設備・管理コストの削減が実証され、すでに全国800カ所採用されている。さらには、富栄養化し



上下水道管理コストの大幅削減を実現する『やぐも水神』

小松 この地域の産業だけでなく、武蔵工業大学の元講師稲葉宏哉先生をはじめ、国内外の多くの専門家の意見も



あらゆる業界からの新規需要も多い「門番」

高速で開閉する「シートシャッター」は、日本でも初めて中継し、世紀プロジェクトを立ち上げた。水と共生して、96年に世界初の生命循環型海洋牧場の構想を、正面から見据えようという。中海・宍道湖を、湖を栄養塩を貯える巨大水櫃と考えれば、中国山代を進み、全国70%の生産品、印刷、食品業界はもとよりあらゆる業界からの新規需要も多い。光の波長で昆虫を制御するオプトロン技術を使った新シリーズも順調に伸びている。国内での累計販売台数は9万台を超え業界トップの座を維持。超密閉技術や自動制御機能など、長年の研究開発で実用化したノウハウを、無償技術供与した韓国をはじめ、中国にも普及がはじまっている。

中海・宍道湖は日本を代表する汽水湖。富栄養化が進み、全国70%の生産品、印刷、食品業界はもとよりあらゆる業界からの新規需要も多い。光の波長で昆虫を制御するオプトロン技術を使った新シリーズも順調に伸びている。国内での累計販売台数は9万台を超え業界トップの座を維持。超密閉技術や自動制御機能など、長年の研究開発で実用化したノウハウを、無償技術供与した韓国をはじめ、中国にも普及がはじまっている。

「水」に関しては新しい動きもあるようですね。小松 この地域の産業だけでなく、武蔵工業大学の元講師稲葉宏哉先生をはじめ、国内外の多くの専門家の意見も

「持続可能な社会へのパスポート 一隅を守り千里を照らす」

「だんだん哲学的になつてきたが、小松社長は『中庸』の経営とはどんなものなのか」という問いに、

小松 中庸(論語)は「偏らざるをこれ中といひ、易ならざるをこれ庸といふ」。自分が置かれている環境を肯定し、現在に至るまでの縁のあった人々とくさんの知らない人々の支えによって現在の自分があり、自然と歴史の中で生きていっている。自分の中に生かされていることを自覚(感謝)。人類の特性を考察する中から、究極の論理的・合理的目的に自覚、環境・健康・平和という観点から自分の一生を達成できない目標を3個以上イメージし、それに向かう節目を臨機応変に生かされたい。



小松電機産業 社長 小松 昭夫氏

### (財)人間自然科学研究所

#### 未来を拓く知価創造機関に

「これまでの企業活動は自然環境がキーワードですが、これに国内外の社会環境も視野に置いて『健康』『平和』を加えた事業活動を構築されています。小松 これを私は企業から事業へ、と云っています。小松電機は私の生家の10坪の納屋を作業所に生業がスタートした。製品がヒットし受注が増え工場も大きくなって企



竹島に平和祈願像の建立を

入れ替えを提案。また99年「太陽の國IZUMO」で発表した朝鮮戦争を人類最後の総力戦にすべく、民族衣裳をまとった戦争関係の女性と地球をモチーフにした「人類恒久平和祈願像」の建立を提案。切手・シールの発行活動もすでに動き出している。

また中国山東省の一流ホテルを手始めに北京オリンピックを目指して日中英「論語」を置くことを計画、すでに省政府への申し入れを終えている。中国、韓国での友好・昇華事業や、「健康・環境・平和」祈願像の建設など、構想もだんだん具現化の方向に向かっている。一連のこれらの活動が評価され、03年11月孫子の故郷中国山東省東營市から「達成する平和の目的を達成する平和の知恵者・孫子」の銅像をいただいた。

「人間自然科学研究所」と小松電機産業との関係はどのようなものでしょうか。

小松 この研究所は、山陰の時代にあつて、人間と自然と科学のかわり合いの中で、未来を拓く知価創造のための機関として発足した。端的に言えば、これまで活動の柱は小松電機だったが、

「持続可能な社会へのパスポート 一隅を守り千里を照らす」

「だんだん哲学的になつてきたが、小松社長は『中庸』の経営とはどんなものなのか」という問いに、

小松 中庸(論語)は「偏らざるをこれ中といひ、易ならざるをこれ庸といふ」。自分が置かれている環境を肯定し、現在に至るまでの縁のあった人々とくさんの知らない人々の支えによって現在の自分があり、自然と歴史の中で生きていっている。自分の中に生かされていることを自覚(感謝)。人類の特性を考察する中から、究極の論理的・合理的目的に自覚、環境・健康・平和という観点から自分の一生を達成できない目標を3個以上イメージし、それに向かう節目を臨機応変に生かされたい。

「持続可能な社会へのパスポート 一隅を守り千里を照らす」

「だんだん哲学的になつてきたが、小松社長は『中庸』の経営とはどんなものなのか」という問いに、

小松 中庸(論語)は「偏らざるをこれ中といひ、易ならざるをこれ庸といふ」。自分が置かれている環境を肯定し、現在に至るまでの縁のあった人々とくさんの知らない人々の支えによって現在の自分があり、自然と歴史の中で生きていっている。自分の中に生かされていることを自覚(感謝)。人類の特性を考察する中から、究極の論理的・合理的目的に自覚、環境・健康・平和という観点から自分の一生を達成できない目標を3個以上イメージし、それに向かう節目を臨機応変に生かされたい。

「持続可能な社会へのパスポート 一隅を守り千里を照らす」

「だんだん哲学的になつてきたが、小松社長は『中庸』の経営とはどんなものなのか」という問いに、

小松 中庸(論語)は「偏らざるをこれ中といひ、易ならざるをこれ庸といふ」。自分が置かれている環境を肯定し、現在に至るまでの縁のあった人々とくさんの知らない人々の支えによって現在の自分があり、自然と歴史の中で生きていっている。自分の中に生かされていることを自覚(感謝)。人類の特性を考察する中から、究極の論理的・合理的目的に自覚、環境・健康・平和という観点から自分の一生を達成できない目標を3個以上イメージし、それに向かう節目を臨機応変に生かされたい。

「持続可能な社会へのパスポート 一隅を守り千里を照らす」

「だんだん哲学的になつてきたが、小松社長は『中庸』の経営とはどんなものなのか」という問いに、

小松 中庸(論語)は「偏らざるをこれ中といひ、易ならざるをこれ庸といふ」。自分が置かれている環境を肯定し、現在に至るまでの縁のあった人々とくさんの知らない人々の支えによって現在の自分があり、自然と歴史の中で生きていっている。自分の中に生かされていることを自覚(感謝)。人類の特性を考察する中から、究極の論理的・合理的目的に自覚、環境・健康・平和という観点から自分の一生を達成できない目標を3個以上イメージし、それに向かう節目を臨機応変に生かされたい。